

令和6年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立松任高等学校

重点目標	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
① ICT活用や外部人材活用等により生徒の能動的な学習を推進し、進学実績の向上、就職希望者の100%就職など多様な生徒の進路実現を目指す。	① すべての生徒が授業を受ける基本的態度を身につけられるように指導する。	「私語や居眠りをせずに集中して授業に参加している」と回答する生徒の割合が A 80%以上である。 B 75%以上80%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。	82% 評価A 肯定的評価 1年 83% 2年 84% 3年 79%	中間評価の81%より若干ではあるが増加した。生徒による授業評価においては、「教員が私語やいねむりを注意している。」の回答が95.5%（当てはまると大体当てはまるの合計）となっている。基礎学力の定着には、授業規律の確保と学習環境の整備が大事である。生徒が授業を受ける基本的な態度を身につけられるように、今後も組織的に指導を行っていきたい。
	② 基礎学力の向上を図るため、ICT機器の活用や、自分の考えを書いたり話したりする授業によって学習意欲が高まつたと回答する生徒の割合が A 80%以上である。 B 75%以上80%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。	「ICT機器の活用や自分の考えを書いたり話したりする授業によって学習意欲が高まつた」と回答する生徒の割合が A 80%以上である。 B 75%以上80%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。	86% 評価A 肯定的評価 1年 84% 2年 87% 3年 89%	中間評価の81%より増加した。前年度よりは増加している。しかしながら、生徒による授業評価においての質問項目で、「生徒や先生がクロームブックなどを活用する授業である。」の回答が82.9%（当てはまると大体当てはまるの合計）となっており、肯定的な割合が、他の項目と比べて最も低い。今後はさらに端末使用を前提とした授業を展開するために、効果的な使い方を研究、共有をしていく必要がある。
	③ 考査前の補充学習等や部活動ごとの勉強会などで、学習習慣を促し、家庭学習時間の増加を目指す。	考査1週間前から考査期間中の学習時間が平均1日90分を超えている生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上60%未満である。 C 40%以上50%未満である。 D 40%未満である。	42% 評価C 90分超えの割合 1年 51% 2年 43% 3年 37% 0時間 7%	中間評価の50%より減少した。考査1週間前から考査終了前日までの平均学習時間が、一人当たり約93分となっている。また、学校全体で平均50分を超えている生徒の割合は71%となっている。今後は学校全体として、より学習時間が確保できるよう、学年と各教科で連携をとり、提出課題の量とバランスをはかる。また、日頃の生徒のよい側面を見出し、生活習慣と学習習慣の見直しを促すよう声かけを行い、学習計画にしっかり取り組めるよう進めていきたい。
	④ 1年次より継続してきた進学希望者に対するガイダンス機能を向上させ、個別指導や支援体制を強化することで、第1希望への進学を実現できた生徒の割合が90%以上を目指す。	3年生の進学希望者で進学先を決定でき、第1希望への進学を実現できた生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	94% 評価A 進学希望者 31名 進学決定者 29名	国公立大学への進学は大変難しく結果が出なかったが、私立大学の公募推薦を含め多くの生徒が希望の学校に合格したことは評価できる。今年度も推薦入試に向けた志望理由書の作成や、面接練習を夏季休業中に集中して行い、計画的に準備を進めたことが良かったのではないかと考えられる。基礎学力を向上させることが進路実現の土台であり、志望理由を明確化にする指導の重要性を職員で共有し、生徒の意識を高め、地力をつける指導を今後も継続させたい。
	⑤ キャリアに対する意識を向上させ、就職希望者全員の内定を目指す。	学校紹介を希望する生徒で、企業から内定を得ることができた生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	95% 評価A 学校紹介 就職希望者 22名 就職決定者 21名	企業側の求人意欲は前年以上に高い水準を維持していると思われる。求人数は前年よりかなり増加がみられた。卒業生の活躍により、最近の求人にない事務職もみられた。また中小企業の求人も製造、サービス業を中心に活発であった。学校紹介を希望する生徒は、本人の努力に加え「就職教室」のサポートの中で、第1希望の1回目の受験で95%の内定が確定し、昨年に比べて良い結果となった。大手企業の求人は、成績・欠席・企業の人物評価を含め例年通りであり、推薦者の選定が重要である。今年は、自分の方向性を明確化できない生徒の進路指導が難しく、対応にかなり苦慮した。
学校関係者評議委員会の評議		<ul style="list-style-type: none"> 考査直前の学習支援で、生徒も分かる喜びを体験していると思われる所以、この輪を広げる工夫をして欲しい。 ICT機器を活用して、「クロームブックを活用し授業を充実させましょう。」「クロームブックを活用しわかる授業を心掛けましょう。」ということではないかと考えます。 家庭学習時間が、学年が上がるに従い低くなっている。0時間の生徒も僅かであるが増加しているので、今後評議が上がっていくよう期待したい。 		
学校関係者評議委員会の評議をふまえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 今後考査直前の学習支援というよりも、普段から学習時間が確保できるような課題等を、各教科で連携を取り組んでいきたい。 ICT機器を使用していない授業も存在するので、さらにICT機器の効果的な使い方を研究、共有したい。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
② 部活動や特別活動の活性化を図ることで、自己肯定感を高め、心身ともに健やかな人間力のある生徒を育成する。	① 部活動加入の促進とともに継続して部活動に参加することの大切さを理解させる。	継続して部活動をしている生徒の割合が A 70%以上である。 B 60%以上70%未満である。 C 50%以上60%未満である。 D 50%未満である。	77.0% (1、2年生) 評価A 1月末現在の加入率 1年生 92.3% 2年生 60.9% 加入者数 137人	生徒数が減少していることもあり、加入率で見る数字ほど部活動は活発とは言えない。特に、団体競技の運動部ではチームとしての人数が確保できない部活動が多く、部員のモチベーションの維持や練習環境が課題となっている。文化部では活動回数の少ない部活動に所属する生徒が多く、加入率は高いものの学校の活性化には直接つながっていない。バドミントン部や弓道部のように活発な部活動もある。地区の小さな大会等も活用し、生徒に合った適切な目標設定をすることで生徒の自己肯定感を高めていきたい。
	② 部活動、生徒会、各種委員会及び学年での地域交流や地域貢献活動への参加の機会を増やす。	部活動等で地域（外部）の活動に参加した延べ回数が A 60回以上である。 B 50回以上60回未満である。 C 40回以上50回未満である。 D 40回未満である。	80回 評価A 運動部 29回 文化部 12回 生徒会・委員会 2回 学年 26回 その他 11回	2学年の「総合的な探究の時間」において地域の商店街との連携企画の取り組みを発展させることにより、地域の方々との関りが増えた。また、教科によっては地域の人材を授業に生かすなど工夫が見られるとともに、観光ビジネスの授業では白山市の観光課から講師を招き、講演を行うなどの試みもあった。なお、運動部の地域の大会や文化部における地域の展覧会等への参加なども地域交流活動とみなした。
	③ 保健委員会を中心に、生徒全体に対して生活習慣確立の大切さについて伝え、自己の健康管理能力を向上させる。	「基本的な生活習慣を整えようとしている」と回答する生徒の割合が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	83% 評価A 1年生 81% 2年生 88% 3年生 79%	昨年度より4%上昇した。学年別に比較すると、1年生8%（昨年度の1年生と比較）、2年生15%（1年次と比較）、3年生10%（2年次と比較）上昇している。例年1年生は生活リズムが変化するため低い傾向があるが、今年度は3年生が最も低い結果となった。3年生は他の学年と比較しても欠席者が多いことからも生活習慣が整っていないことがうかがえる。2年生の上昇率が高かったのは、修学旅行の事前指導を通して自己の生活習慣を整えようと意識するようになった生徒が増加したことが要因と思われる。また、今年度の保健委員会では目の健康に関する研究発表を行い、2年生を対象にした歯科講話も継続して行っている。これらの活動を次年度も継続して、健康管理の大切さについて情報発信をしていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> 現代の若者の特徴に「心が折れる」「すぐ諦める」等があげられると思います。少子化の影響で活動しにくくなっているとは思うが、部活動で自己肯定感やレジリエンスが育つことを願いたい。 部活動が活発になるような仕掛けづくりに早急に是非とも取り組んで欲しい。 		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 部活動の活性化を図るために学校全体で協議を行い、改善が必要とされているので、来年度こそは、生徒会と協力して活性化案を早期に作成し、実践したい。 来年度も部活動のPRは、ホームページなどを活用して情報発信したい。 		

重点目標	具体的な取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）
3 挨拶の励行、端正な服装容儀、遅刻・欠席の減少等、望ましい生活習慣を確立させ、心豊かで安心・安全な学校づくりを促進する。	① 登校時の挨拶運動や授業の開始と終了の挨拶、教職員による廊下での声掛け等を充実させ、挨拶を実行する機会を増やす。特に朝の登校時においては、挨拶を自分から自然にできる生徒を増やす。	自ら挨拶をしている生徒の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である	83% 評価C 肯定的評価 1年 85% 2年 82% 3年 81%	中間評価は86%、昨年度は87%であった。毎朝、職員による登校指導を行っており、声掛けなどに対して、しっかりと挨拶ができる生徒も多い。昨年に比べて悪くなっている感覚はないが、学年が上がるにつれて出来ていない傾向にある。上級生がモデルとなるように、授業開始時の挨拶を徹底していきたい。
	② 生徒が端正な服装容儀で学校生活に臨むことができるようになる。	服装容儀で指導を受けることなく、学校生活に臨んでいる生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上90%未満である C 70%以上80%未満である D 70%未満である	94% 評価A 肯定的評価 1年 96% 2年 94% 3年 93%	中間評価は96%、昨年度は96%であった。一部で指導に従わない生徒もいるものの、概ね指導に対してはきちんと対応し、正しい服装容疑を意識して学校生活に臨んでいる。今年度は全校生徒対象の「身だしなみ講座」や「身だしなみ向上キャンペーン」もを行い、服装容儀への意識を高めた。今後とも生徒の服装容疑に対する意識を高めていきたい。
	③ 職員全員で登校指導時に遅刻防止を呼びかけるとともに、定期的に集会で啓発する。また、各生徒の遅刻の回数を把握し、常習者には保護者との連絡を取って遅刻防止に取り組む。	年間の遅刻回数0(ゼロ)の生徒の割合が A 60%以上である。 B 50%以上60%未満である。 C 40%以上50%未満である。 D 40%未満である。	37% 評価D 肯定的評価 1年 47% 2年 36% 3年 26%	昨年度よりも遅刻する生徒の割合が増えている。体調不良による遅刻も増えているが、生活習慣の乱れ（寝坊など）により1限目以降に登校する生徒が多かった。遅刻の多い生徒に対しては、保護者等の協力も得て生活習慣の改善を図る取り組みが必要である。
	④ 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの早期発見・未然防止に取り組んでいる。	「いじめをしない、いじめを見逃さない」と回答する生徒の割合が A 90%である。 B 85%以上90%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	92% 評価A 肯定的評価 1年 89% 2年 93% 3年 95%	中間評価は91%、昨年度は86%であった。今年度、1学期に1年生でいじめが2件発生した。いずれも初期の段階で対処することができた。そのことにより学校としていじめを許さない姿勢を示すことができた。今後も学校としていじめを許さない姿勢を示すとともに、相談しやすい環境作りを行い、いじめの未然防止・積極的認知に取り組みたい。
	⑤ 職員が緊密に連携して、問題を抱える生徒の早期発見と支援及び問題行動の未然防止ができるようになる。	「職員間で気になる生徒の情報を共有し、関係機関と連携し、組織的に生徒の支援ができる」と回答する職員の割合が A 100%である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	96% 評価B あてはまる 64% やや 32% あまり 4% 全く 0%	昨年度の最終評価より1%減少した。「あてはまる」と答えた職員が70%から64%、「ややあてはまる」と答えた職員が27%から32%となった。しかしながら「教員は子どもの悩みや相談に応じるなど親身になって指導している」と答えた保護者が昨年度より1%上昇して91%、「親身になって悩みや相談に応じてくれる先生がいる」と答えた生徒が中間評価より3%上昇して83%になったことから、職員と保護者の連携および生徒への支援はできていると考える。今後も生徒の変化に敏感に対応して職員間で生徒情報を共有し、保護者とも協力して、さまざまな問題の早期発見と支援を行っていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> よくない部分の指導は必要ですが、生徒を伸ばす生徒指導、さらには生徒自らが伸びていこうとする生徒指導はもっと重要なことだと考えます。「松高ならしっかり見てくれるよ」という信頼を得るために方策を、全職員で知恵を絞って取り組んで欲しい。 いじめが解消した後の見守りが必要であると感じるので、対応をしっかりとしたい。 		
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策		<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導において、計画(Plan)を立て、実行(Do)するだけでなく、その後の振り返りとして点検・評価(Check)と、それに基づく更新(Action)を重視しPDCAサイクル取組を充実させることになり、効果を上げられるようチームとしての学校づくりに取り組みたい。 		

重点目標	具体的な取組		実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）			
4 生徒・保護者・地域の理解を得ながら教職員の多忙化改善を図り、質の高い教育活動の継続に努める。	①	職員がワークライフバランスを意識して計画的かつ効率的に業務を遂行する。	時間外勤務時間の一ヶ月の平均が80時間未満の職員の割合が A 100%である。 B 90%以上100%未満である。 C 80%以上90%未満である。 D 80%未満である。	9 6 % 評価B 8 0 時間超え 4月 3人 5月 2人 6月 1人 7月 1人 8月 0人 9月 0人 10月 3人 11月 1人 12月 0人 1月 0人	今年度は、合同チームでの大会参加のため、他校で合同練習を行ったり、北信越大会・全国大会に向けての合宿・大会参加等で業務負担が大きかった。また、進路指導業務・校務・全国大会運営会議での役員参加等で多忙な時期があった。今後は、不要な業務の見直し等、精選に努めたい。			
学校関係者評価委員会の評価			・アンケート数値については、良好だと感じます。					
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策			・業務の見直しを図り、一人に業務が集中しないように分担させていきたい。					
5 中学校や外部との連携を密にし、本校への理解を図る。また、広報活動を充実させ、地域から信頼される学校づくりに努める。	①	学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を隨時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	「広報活動（各種通信、メール配信、HP等）が充実しており学校の取り組みに対して理解が深まった」と回答する保護者の割合が A 90%以上である。 B 85%以上90%未満である。 C 75%以上85%未満である。 D 75%未満である。	8 3 % 評価B あてはまる 3 2 % やや 5 0 % あまり 1 7 % 全く 1 %	学年や各課からの通信の発行やホームページの更新、メール配信を隨時行い、学校の教育活動を積極的に発信するよう努めた。R6中間評価では8 2 %、R 6最終評価では8 3 %と若干ではあるが増加であった。今後も必要な情報を迅速に閲覧できるホームページの改善に取り組んでいきたい。			
学校関係者評価委員会の評価			・部活動のホームページに工夫を凝らして欲しい。部活動で学校選びを考えている中学生が多い。 ・松任高校の魅力を常に情報発信してください。もっともっとホームページ作りに研鑽して欲しい。					
学校関係者評価委員会の評価をふまえた今後の改善策			・今年度は生徒の活動様子がわかるように、行事が終了したらすぐ情報発信に努めてきた。 ・部活動の活動内容などを魅力ある内容で発信できるよう職員でホームページ作り改善に取り組んでいきたい。					